

---

# 新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

---

対象期間 1月24日～1月30日

2月1日 健康医療福祉部感染症対策課

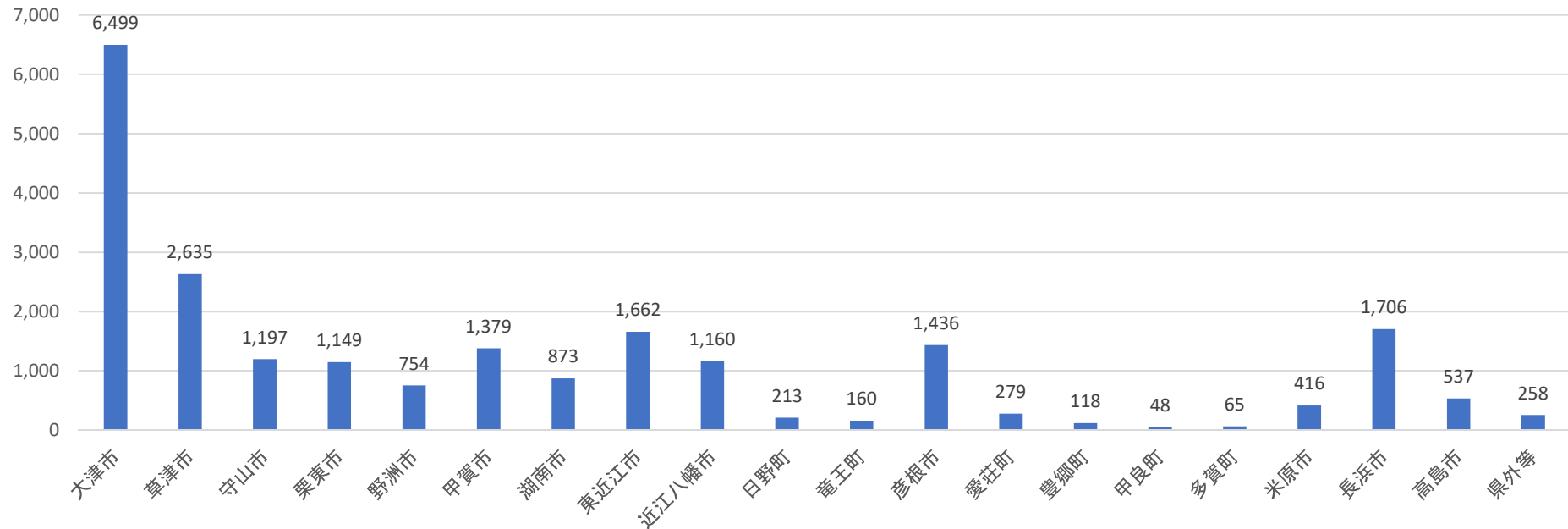


# 1、県内の感染状況について

## 1) 県内の陽性者発生状況

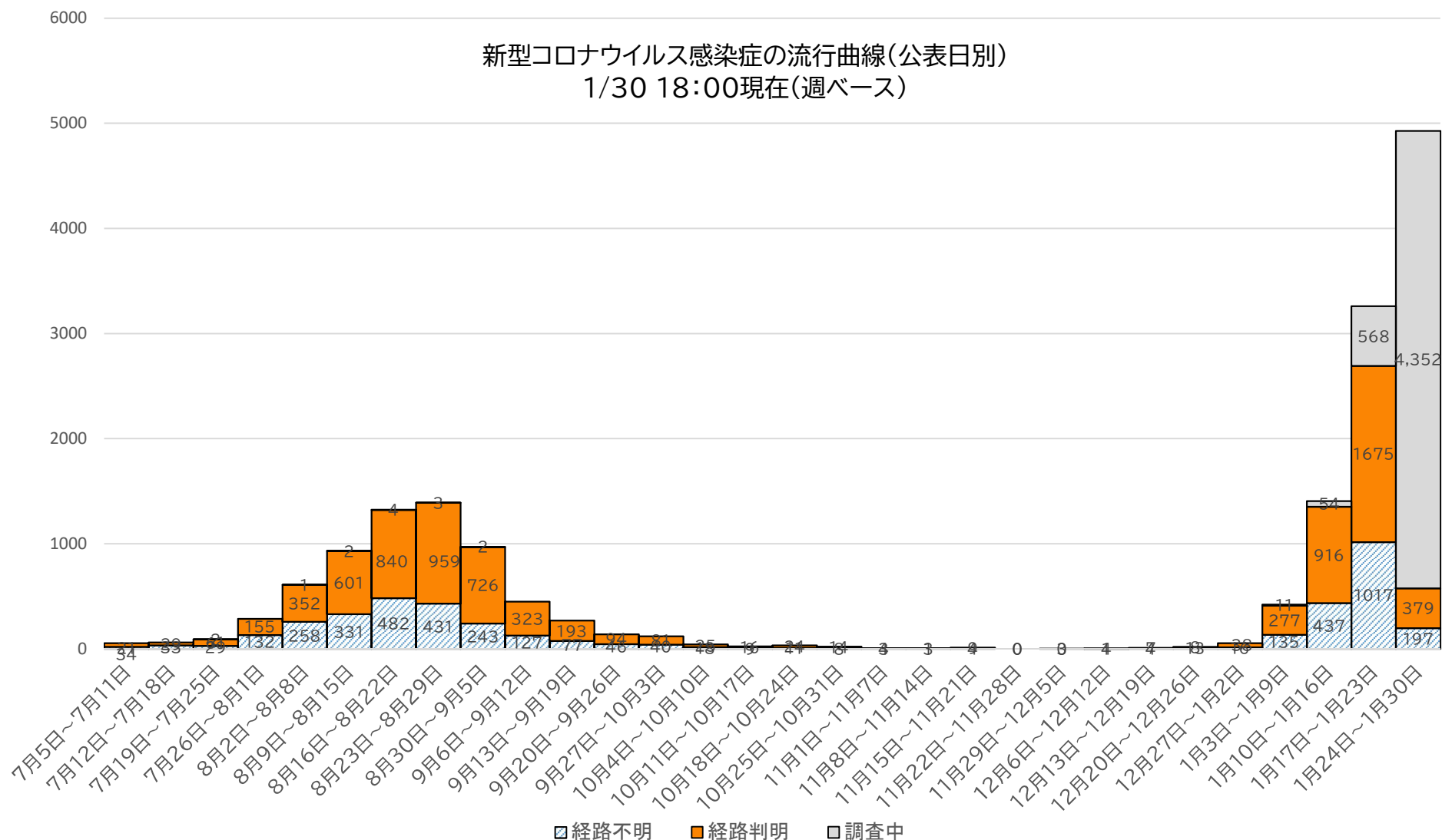
	新規感染者数
今週の報告数(1/24~1/30)	4,928人
累計(1/30時点)	22,544人

## 2) 市町別の累計陽性者発生状況



### 3) 県内の感染動向

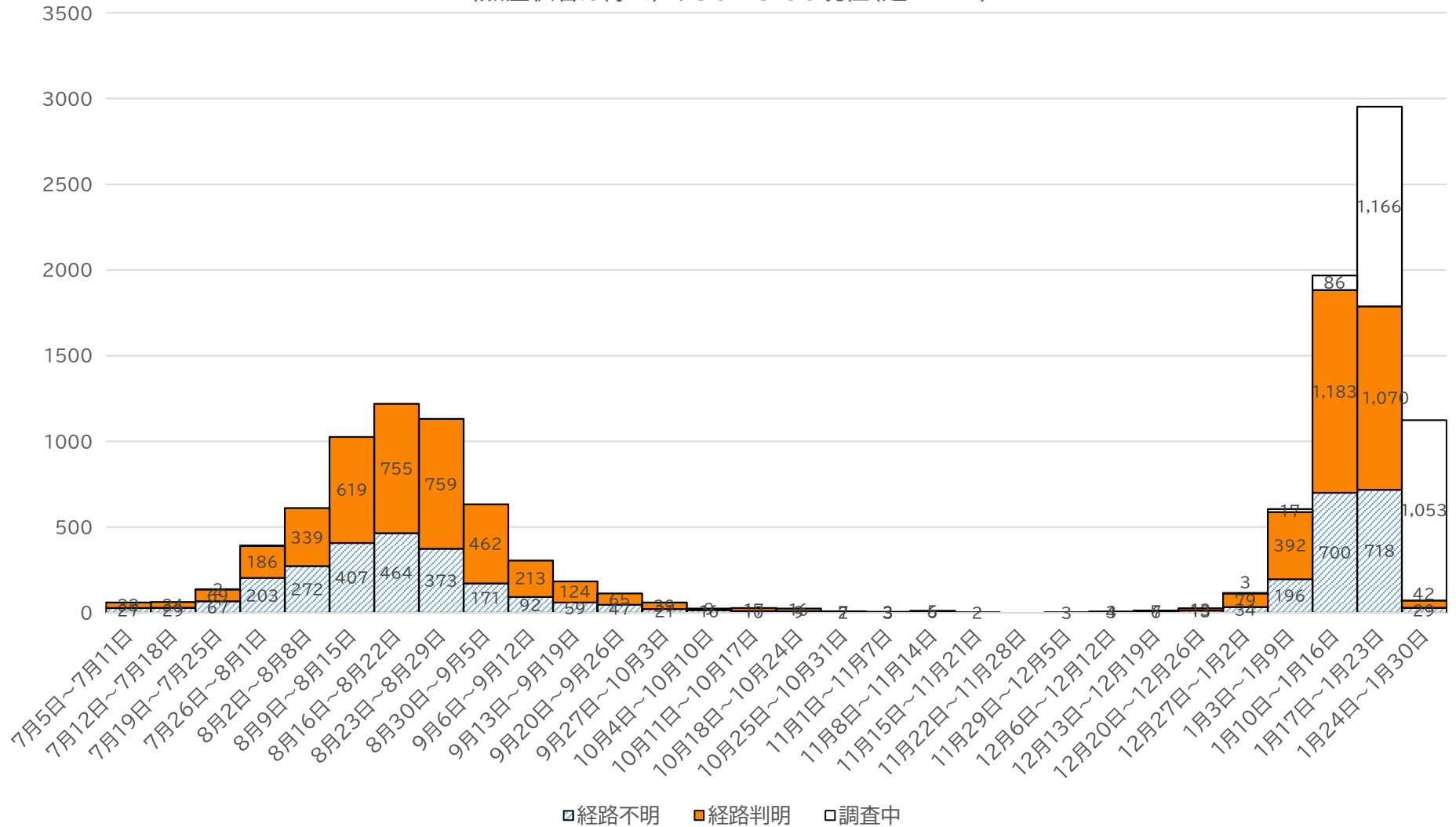
#### ① 流行曲線(公表日別)(1月30日現在)



流行曲線：感染症の流行を経時的に観察し、流行の特徴を把握することができます。

## ②流行曲線(発症日別)(1月30日現在)

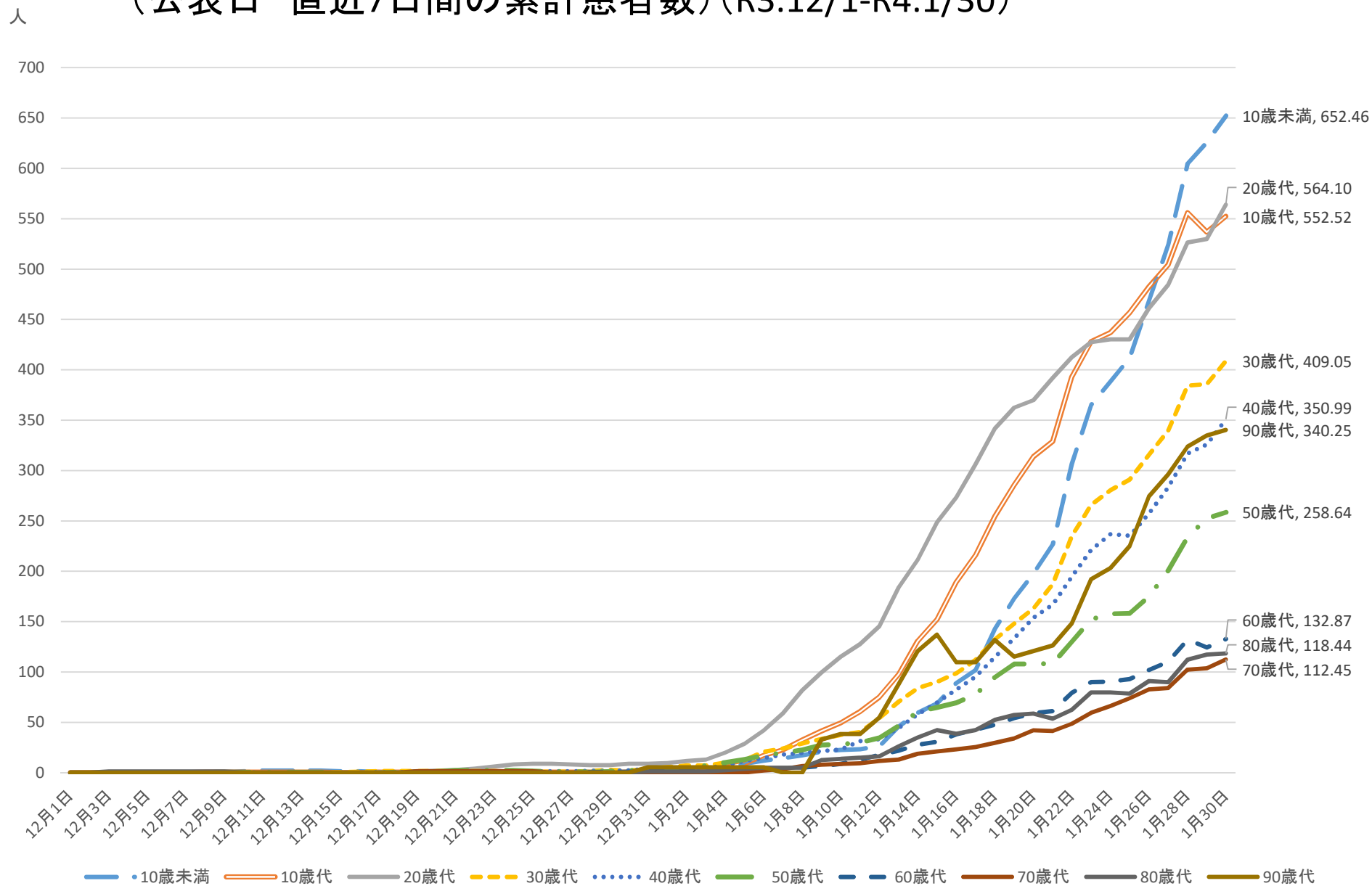
新型コロナウイルス感染症の流行曲線(発症日別)  
(無症状者は除く)1/30 18:00現在(週ベース)



注)無症状者を計上していません。今後1/30以前に発症した患者が届出されることがあります。

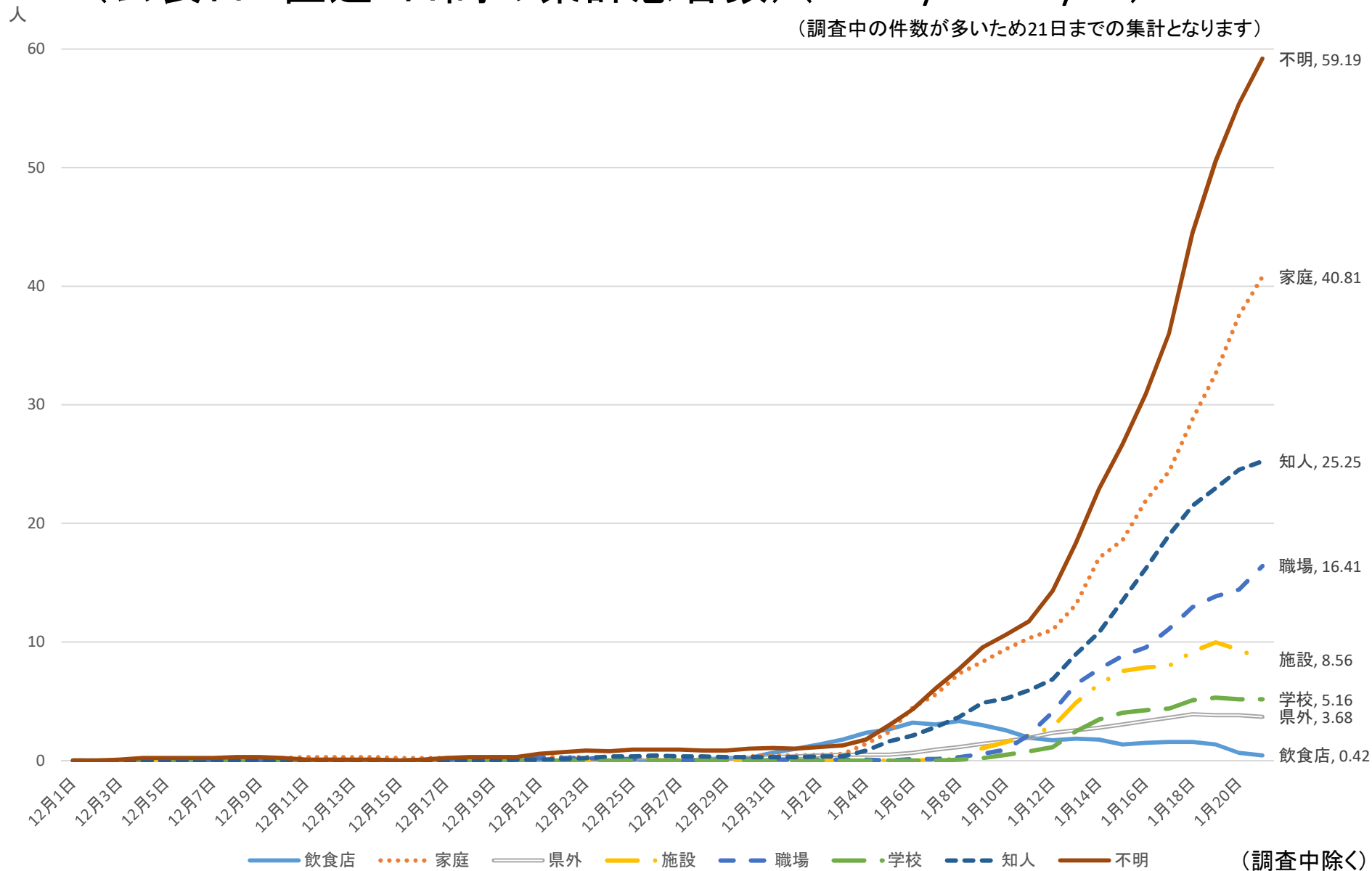
# 4)年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数)(R3.12/1-R4.1/30)



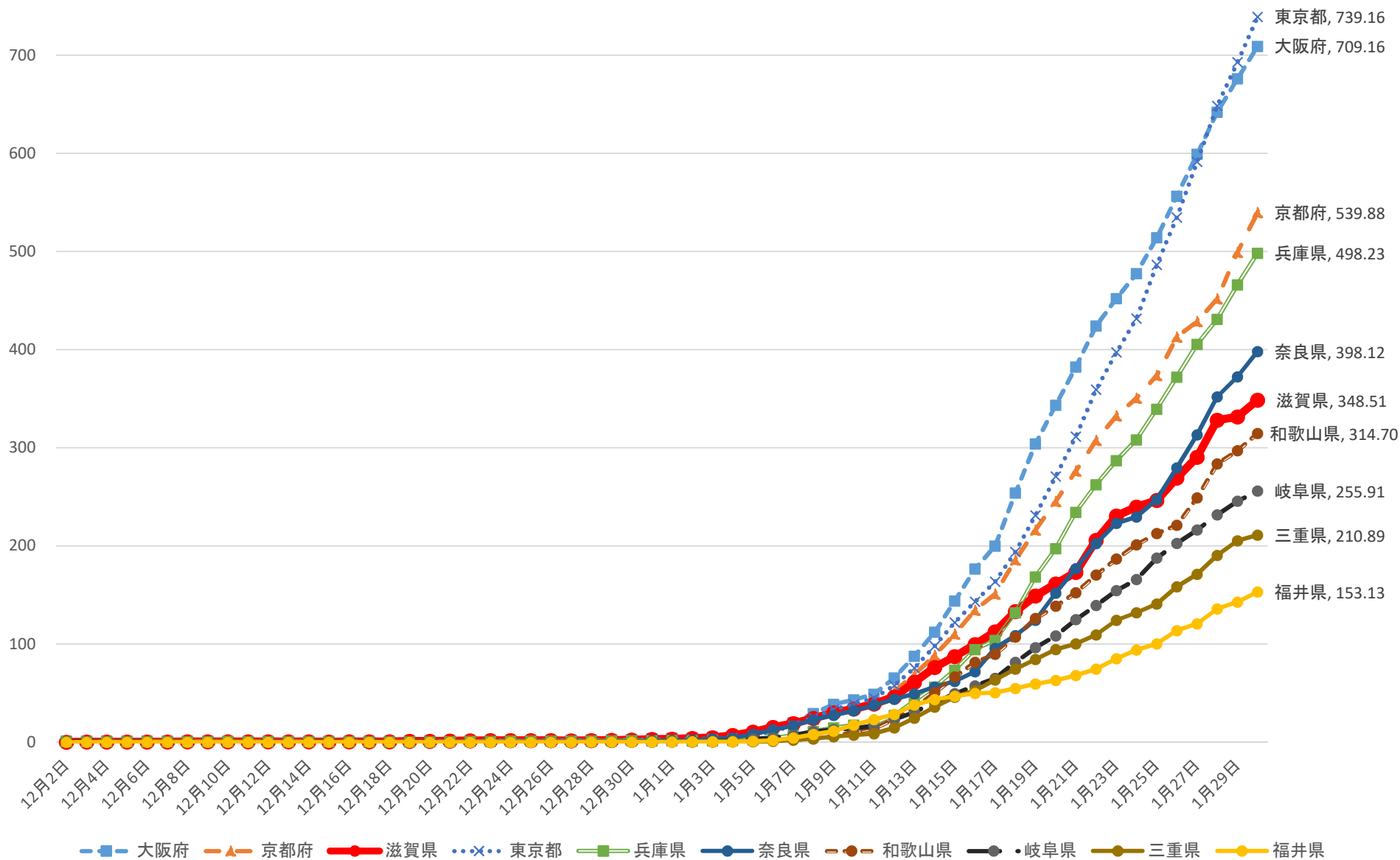
# 5)陽性者の感染経路(10万人あたり)推移

(公表日 直近7日間の累計患者数)(R3.11/1-R4.1/21)



# 6) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移

人 (直近7日間の累計患者数)(R3.12/1-R4.1/30)





## 2、県内の感染状況と体制について(1/30現在)

### 1) 県内の病床数および宿泊療養施設の状況

	県内 病床数					県内 宿泊療養 部屋数					
		入院者数	空床数		療養者数		清掃・修 理待ち	空数			
			県内発生	その他					県内発生	その他	
総数	476	335	286	49	141	677	200	200	0	91	386

### 2) 県内の陽性者発生状況

項 目	陽性者数累計	現在 陽性者数							入院予定等	宿泊 療養	退院等	死亡
			入院中			入院予定等						
			重症	中等症	軽症	重症	中等症	軽症				
PCR検査数	223,819											
(うち行政検査分	86,585)	22,544	6,379	286	3	32	251	5,839	200	16,059	106	
(うちその他検査分	137,234)	(うちPCR検査判明分	16,047)					(うち自宅待機	1535)			
抗原検査数	113,074	(うち抗原検査判明分	6,497)					(うち自宅療養	4358)			

重症：人工呼吸器またはECMO(体外式膜型人工肺)が必要

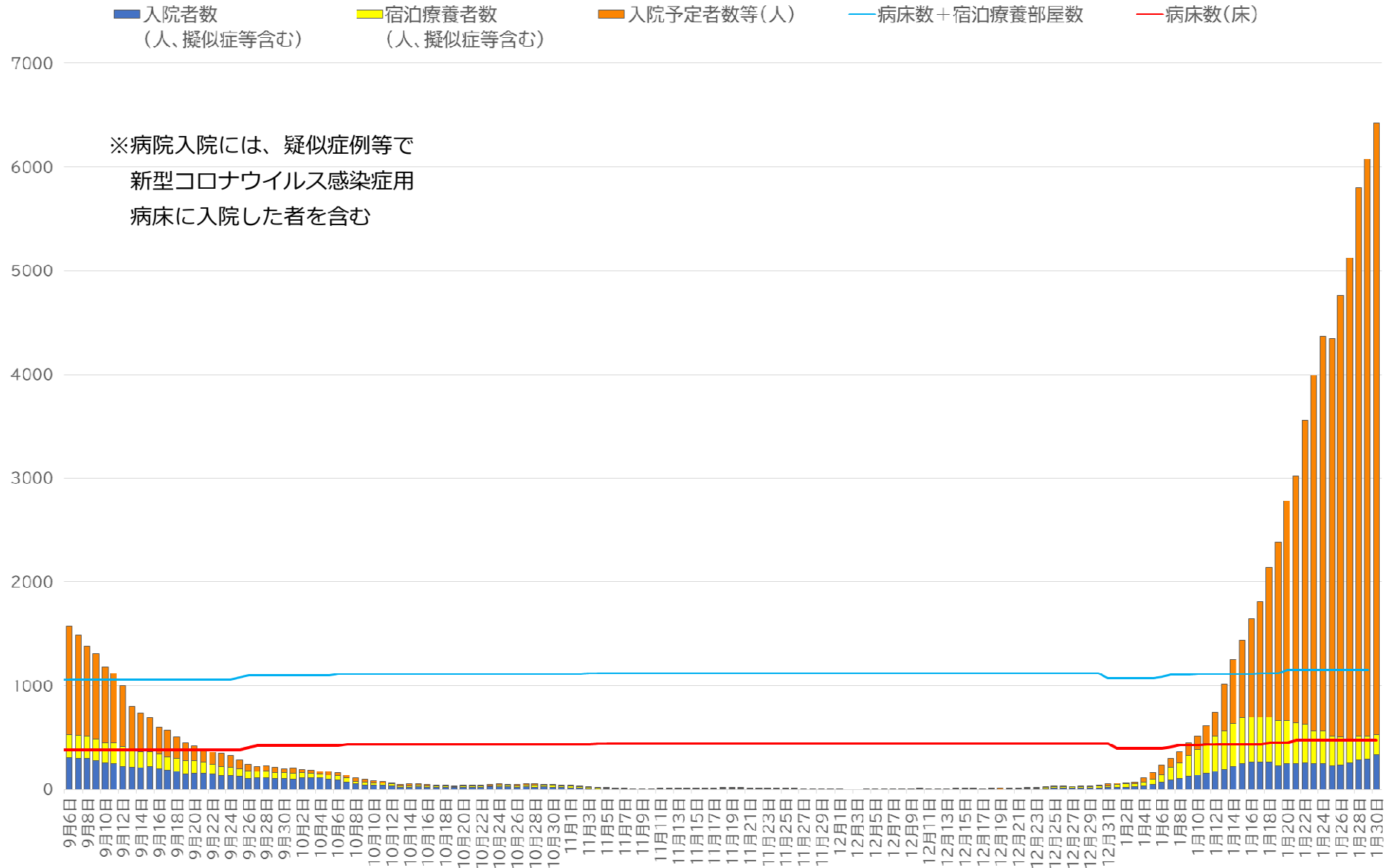
中等症：酸素投与が必要または摂食不可能

軽症：無症状または酸素不要、摂食可能

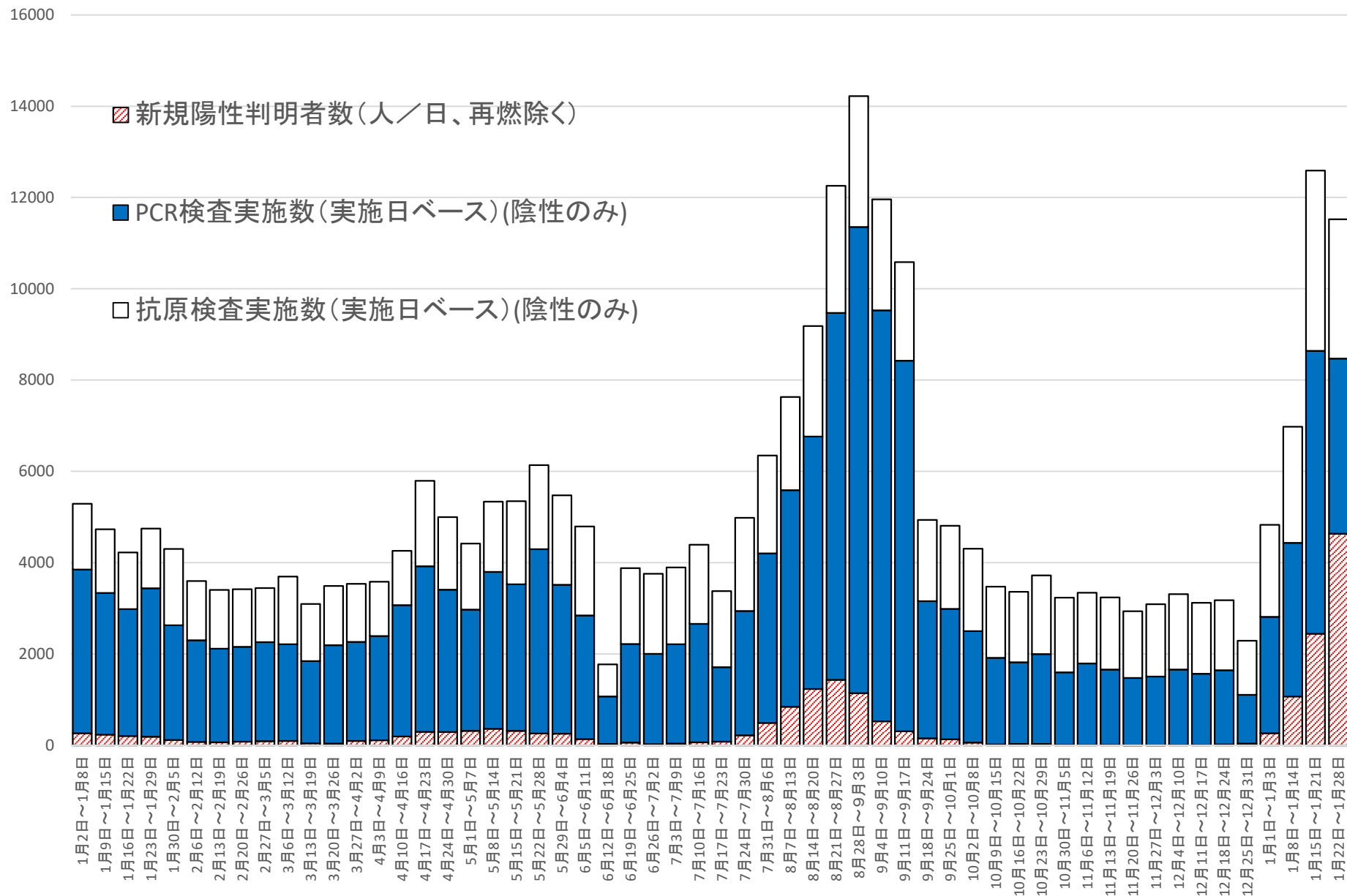
重症者以外のICU(集中治療室)利用者数

0人

### 3)入院医療体制について



## 4)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



## 5)陽性率(7日間移動平均)

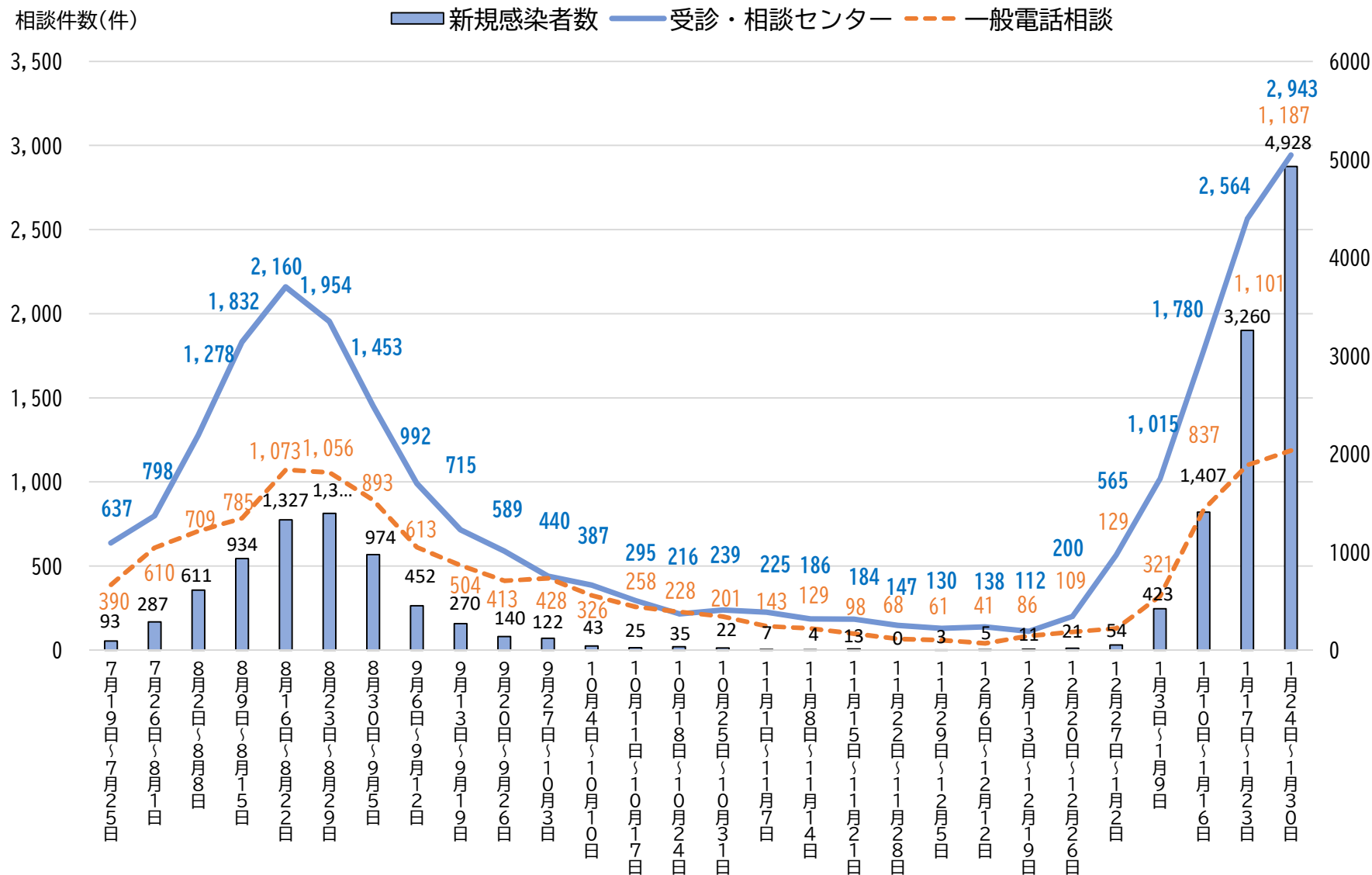


- 陽性率の7日間の移動平均(その日までの7日間の平均)を見ると、1月28日現在の陽性率は38.1%でした。

# 6) 相談体制について

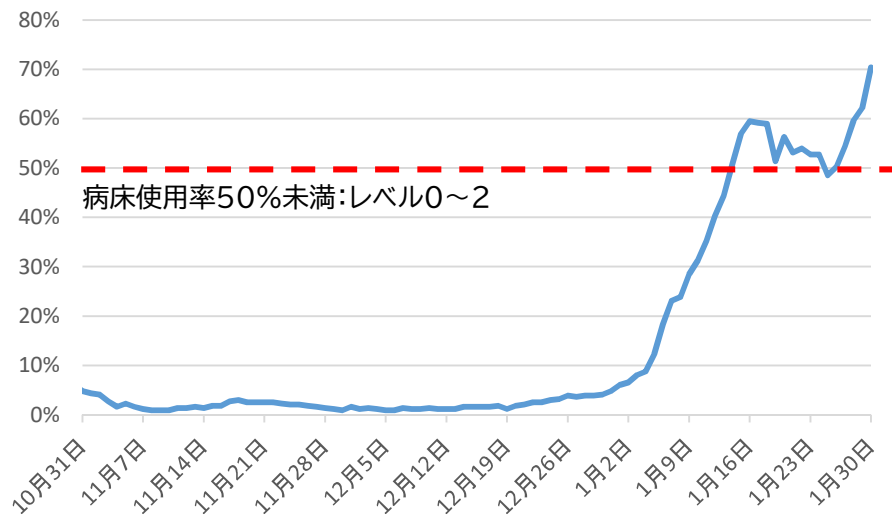
## 相談件数と新規感染者数（週計）

新規感染者数(人)

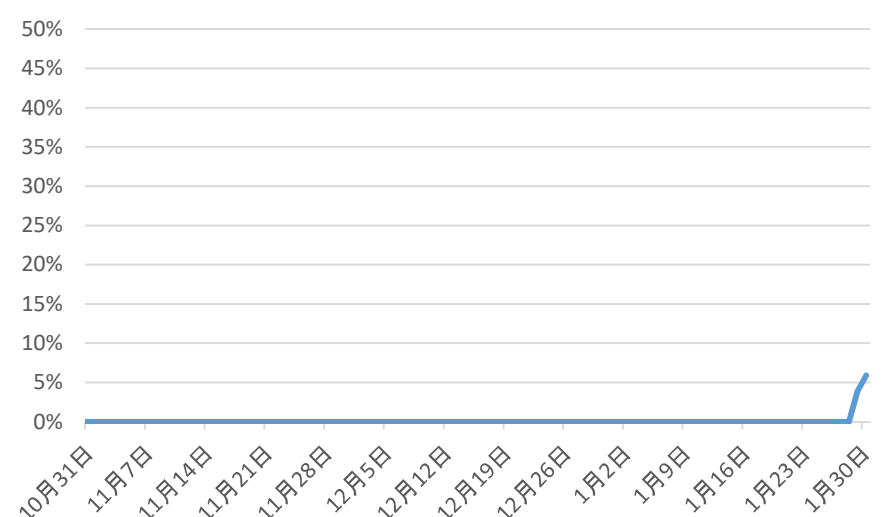


# 7) その他の県内の感染動向

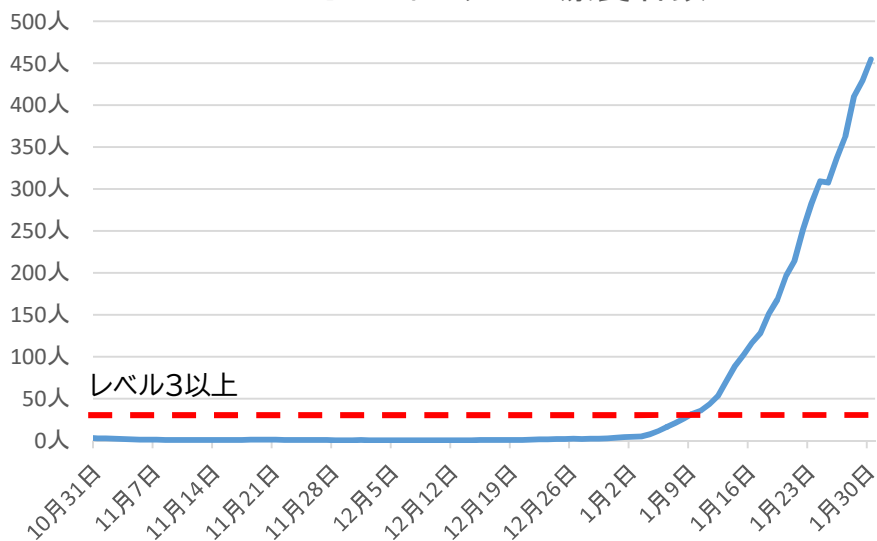
最大確保病床の占有率



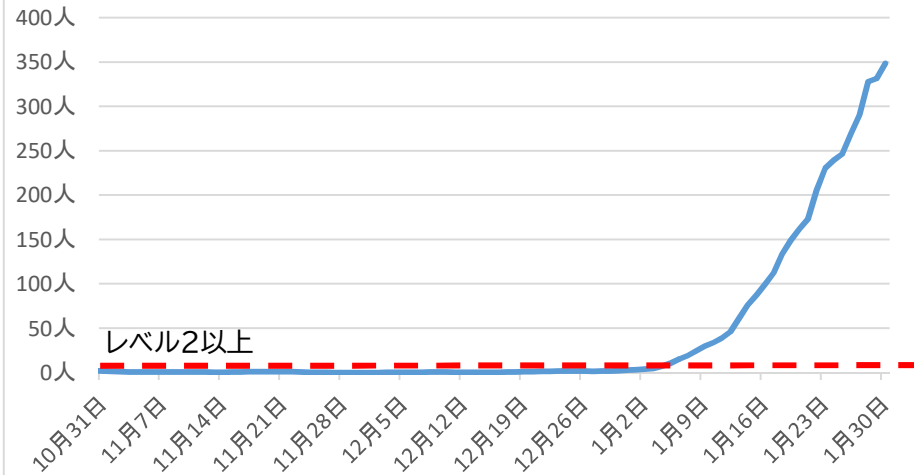
重症者用病床の最大確保病床の占有率



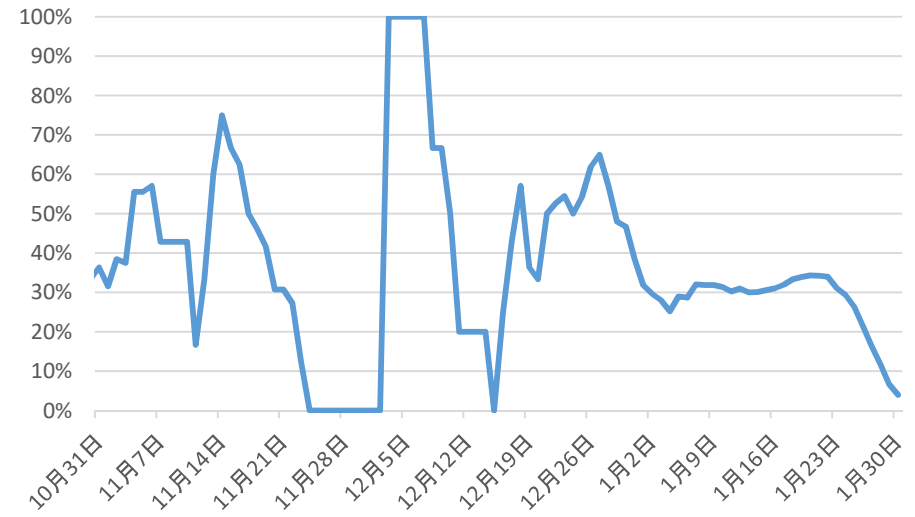
人口10万人当たりの全療養者数



直近1週間における人口10万人  
当たりの新規報告数



感染経路不明割合



※調査が終了し、感染経路が不明と推定された方の割合を示しています。

## 評価(1/24~1/30の感染状況)

- 年末から全国的に新規感染者数が急増し、全ての都道府県で過去最多を更新しています。本県においても、1日の新規陽性者数は、過去最多を更新しており、1月28日には978人の感染が確認され、曜日別で見ても最多を更新し続け、未だピークが見えない状況です。累積の感染者数は約2万人となり、その半数の約1万人が令和4年1月1日以降の感染者となっています。
- 現状は、必要な方へ医療を提供する体制は維持できていますが、新規感染者数の急増に伴い、確保病床の使用率が70%を超え、重症化する方も出てきている状況にあります。入院予定を含む自宅療養者数は5千人を超え日々増加しており、感染者数の増加傾向が継続すると現状のように医療が提供できなくなる可能性を考えるべき状況にあります。
- 学校や保育関連施設のクラスターが多く若い世代の感染者の増加が顕著ですが、全ての年代で増加傾向を示しています。また、65歳以上では中等症化している方の割合が他の年齢層と比べて高く、当該年齢層の方および当該年齢層の方と接する方々は特に対策の徹底が必要です。
- 医療機関や福祉施設等のハイリスクな場所でもクラスターが複数発生しており、医療提供体制が悪化していく可能性が非常に高い状況にあり、クラスターの連鎖を起こさない必要があります。
- 多くの都道府県にまん延防止等重点措置が適用されましたが、明確に収束傾向にある地域はなく、本県は第5波までの状況からみても大阪府や京都府の発生動向に連動する傾向があり、今しばらく感染拡大傾向が継続すると考えます。改めて、手洗い、会話時のマスク着用、換気や密の回避など基本的な感染対策の徹底・強化が必要です。